

B-75 西陣の帯と着尺についての2・3の考察 (第2報) 38年度の流行予想色について

聖母女学院短大 松本 康之
徳永紀代子

1. 筆者らは第1報で38年度の各季節毎に生産された西陣の帯、着尺の地風、柄行、価格らに関する見込生産方針を報告したが、今回はその色目について報告する。

2. 西陣織物研究会色本部選定の帯、着尺流行予想色各120色を日本色彩研究所の色票で色目判定を行なった。

3. 帯：四季を通じて各色が選出されているが、その選定色数からすると赤、青、緑の順となり黄、褐、紫系統色は略同数でこれにつづく。そしてその色目は着尺のそれより総じて濃色で鮮麗である。さて春物の特徴色としてはレンガ色、ライトオリーブや紫の変化色と鮮やかな濃い黄、黄緑であろう。夏物はクリアーなレモン、青緑茶等が効き色として選定され、秋冬物には燃える様な黄味赤、橙、金茶、紫青と緑の出現があった。そして紫系統が少なくなり、赤色系統が増加している。

着尺：帯と同じく各色が採用されているが、その選定色数の順序は緑、赤、青、紫、黄、褐系統色の順序となる。さて春物は落ち着いた緑の変化色が主体をなし、これに赤の濃淡、淡黄～淡褐を配しているが、冴えた赤橙、淡あさぎ、青の中間色等を選出している。夏物は帯に勝るブライトな青、紫を多用し、これにターコイズグリーン、濃赤を効き色としている。秋冬物は落ち着いた赤、青を主色とし、これに明るい黄系統色を多く進出させ、他に青緑、紫を配している。以上の予想色は西陣織の地合、柄行き等と相俟って凡そ所期の成果を得た。